

福祉さとやまべ

発行 松本市社会福祉協議会 里山辺支会
編集 福祉さとやまべ編集委員会
印刷 藤原印刷株式会社

三施設交流事業を終えて

里山辺地区福祉ひろばコーディネーター

小笠原 陽子

十月二日に、世代間交流事業である、三施設交流会「秋のお楽しみ会」が開催されました。

この事業は、令和四年に山辺児童センター、山辺放課後児童クラブ（のびるっこ）、里山辺地区福祉ひろばの共催事業として立ち上がり、今年で四回目の開催を迎えました。

近年は様々な環境の変化から核家族の家庭も増え、幅広い世代間の交流の機会も減少しつつあります。

この事業は、子ども達とシニア世代が楽しく交流することを目的として立ち上げた事業ではありますが、互いの世代の文化や考えについて理解を深める、よい機会にもなっています。

第一回事業では、健康運動指導士の「山本昭子先生」と「アルプスびのマンドリノ」の皆さんをお招きし、手軽にできる運動と、マンドリンの演奏を楽

しました。運動を教えてもらっている最中には、ご参加の皆さんから「昔はこんなことしてたよね。」という声や、子ども達から「初めてやった。」「これ知ってる。」などの声が聞かれ、工夫をしながら楽しい交流の時間を作ることができました。

第二回目には、「ピーナッツバター」のお二人に、南京玉すだれの実演と体験をさせていただきました。南京玉すだれを初めて見るお子さんも少なくありませんでした。

第三回目は「音楽ボーイズ」によるチェロとヴァイオリンの演奏と、音楽に合わせての歌唱を楽しみました。奏者のお二人がどの世代も歌える選曲をしてくださり、会場の外にも聞こえる大合唱となりました。

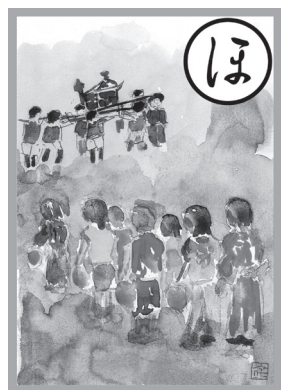
本年度はシニアフィットネストレーナーの「赤津章恵先生」による「うんどうあそび」を、

里山辺公民館大会議室にて行いました。民生児童委員協議会会長の上條さん、宗田市議会議員にもご参加いただき、総勢五十名でにぎやかにゲーム等を楽しみました。子ども達からも「またやりたい。」の声を聞くことができました。今後も参加者が主体となる企画をしていきたいと思っています。

福祉ひろばでは、交流事業の他、健康推進事業、子育て支援事業、認知症予防を兼ねたクラフト講座など様々な事業を行っています。福祉ひろばをご存知ない方も、ぜひ一度足を運んでいただければと思います。



三施設が集まって楽しく交流しました



ほんぼん青山様に興じる子どもたち

「ほんぼん青山様」は松本地域の子どもたちのお盆の風物詩です。前松本市立博物館長の木下守氏によると、「ほんぼんは江戸中期頃より始まった女兒の行事」のようですが、一方の青山様は「明治初期に深志神社の例祭後に子どもたちが町内を練り歩いたのが起源」のようです。この行事は里山辺の多くの町会で見られますが、入山辺では見られません。「松本の町に隣接した地域で町のいろいろな行事の影響を直接受けやすい地域」だったのででしょうか。あるいは通称《山辺街道》が町の生活にとって重要な意味があったことを暗に物語っているのかもしれない。

ほんぼん青山様

山辺っ子に 受け継がれ

「里山辺かるた」

よもやま話

45

「里山辺地区の多くの町会に見られる「ほんぼん青山様」

松本市地域文化財連絡協議会

会長 小岩井 俊忠

六年ぶりの 敬老の日 祝賀会開催

薄町公民館長 篠田 秀美

残暑のまだ厳しい中、九月十五日薄町公民館において六年ぶりとなる敬老祝賀会が開催されました。コロナ禍で人々の集まりが制限される中で、飲食等が禁止されてから久々の開催となり、町会長、実行委員一同、大変嬉しく思います。

今年是一部でフラダンスショー、二部で祝賀会を開催しました。

一部のフラダンスショーでは、ラウレア・フラ・スタジオの皆さんによる五曲のフラを観賞しました。飛び入り参加者も一緒にフラを楽しみました。



フラダンスを楽しみました

二部の祝賀会が始まる前に、米寿表彰があり、五名の方が表彰されました。また、出席者の中の最高齢者が九八歳でお元気に出席されたことも紹介されました。

二部の祝賀会では、ビデオで『薄町のお船、令和の大修理』を流しながら、幕の内弁当、お酒等を頂きながら楽しく観賞、談笑して頂きました。

今年には六年ぶりの開催のため、招待される側の皆様も六歳お歳を取られた訳ですので、今までは出席されていた方が、体の具合が悪い等で今回は欠席される方もいたと思われます。

祝賀会が開催されていた頃は三〇名前後の参加者がいました。今回は十四名参加となりました。参加者が減って大変残念ですが、新しい方もいましたので、来年以降増加すれば嬉しく思います。

最後に、皆様方が末永く御健康で過ごされますよう祈念致します。



民生児童委員の活動を 振り返って

新井町会 民生児童委員
新井 ひろこ

欠員のため、急遽民生児童委員になり引継ぎもなく、手さぐりで始めた活動も十年以上にもなっていました。始めの頃は、訪問相手も不安感があったと思います。

長年民生児童委員を続けていると確かに大変な事も数多くありましたが、皆さんと接する中、町会内で自然と声をかけ合う人も増え、特に「こんにちは赤ちゃん事業」では、二百人以上もの赤ちゃんを訪問しました。赤ちゃんの笑顔に接するたびに心の癒しにもなりました。子ども達の登下校時、声をかけるとちゃんと応えてくれて、うれしかったです。研修会では多くを学ばせてもらい、特に医師の高木先生の講演での認知症の人の対応など目からうろこでもとても勉強になりました。

民生児童委員を否応なく引き受けた私でしたが、自分自身が一番成長できたと思っています。これからも赤ちゃんから高齢者まで安心して暮らせる町内にと願うばかりです。

次の民生児童委員の方の負担にならないように、みんなで支え合い、活動を通して自分自身も楽しむ事を忘れないでほしいです。



夏まつりにも参加しています



「こんにちは赤ちゃん」

編集後記

今年八月に記念すべき「福祉さとやまべ」の一〇〇号が発行されました。今回は一〇一号となりますが、これからも、里山辺地区の福祉活動について理解を深めていただけるような発信となるよう努めてまいります。